

「いつも心にひまわりを」





**えいこさんは毎日、花に囲まれて働いています。
苗を植え替えたり、花ガラを摘んだり、草取りをしたり。
かがんで作業をすることも多いけど、
「うーん」と腰を伸ばすと、木々の緑や色とりどりの花が見えます。
そんな風景を見ていると、心が広々となります。**



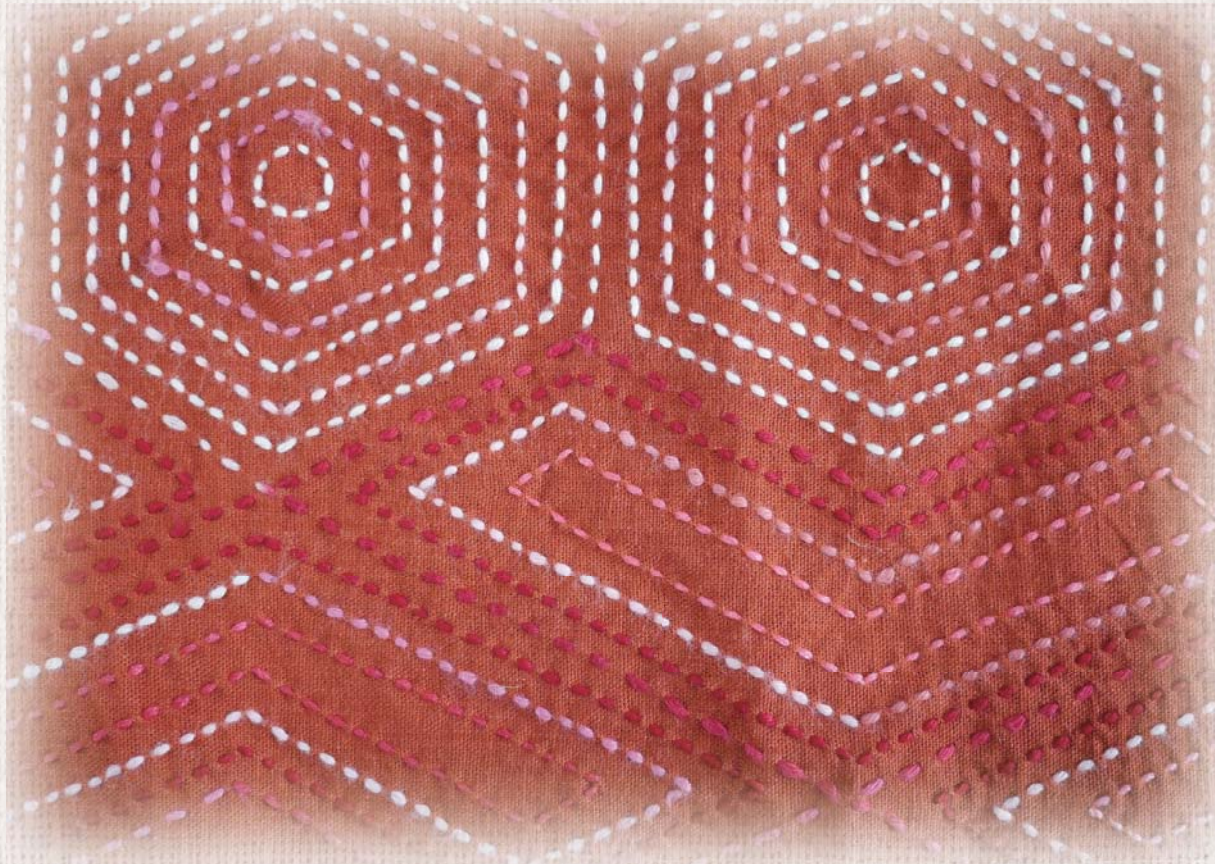
**夏はとびきり色鮮やかです。ひまわり、ハイビスカス、マリーゴールド、ルドベキア…。
赤や黄色の花が、太陽の光をいっぱいに浴びて輝いています。
そして、いつの季節も大山がえいこさんたちを見守っています。**

夏はすごく暑いし、
冬はびっくりするくらい
雪が積もることだってあります。
でも、仲間と一緒にだと、
「よし、今日もがんばろう！」と
力がわいてきます。
月に1度のお楽しみは、給料日。
計算は苦手だけど、
大事に大事に使います。





**普段は仲間と一緒にグループホームで暮らすえいこさん。
自分で掃除や洗濯をして、毎日欠かさず日記を書いています。
夜は友だちとおしゃべりしたり、一緒にテレビを見たり。
部屋の窓からも、大山がきれいに見えます。**



休みの日は、1人でバスに乗って、お母さんが待つ家に帰ります。
一緒にごはんを食べて、いっぱいおしゃべりをして、お墓参りにも行って。
仕事柄、家でもついつい庭の草取りをしてしまうえいこさんです。
そして、「お母さんがんばってね！」と笑顔で手を振り、帰っていきます。



えいこさんは、難産で生まれ、
その時の後遺症で知的障がいがあります。
お母さんはその後ろ姿を見送りながら、
えいこさんが16歳で
寮生活を始めた時のことを思い出しました。
初めて離ればなれになった時、
さびしくて泣いたのはお母さんの方でした。

今だって、「もし、私がいなくなったら…」と、
心配でなりませんが、
元気よく歩いていく姿を見ていたら、
涙と笑いがこぼれました。
「いつのまにか、
私のほうが励まされるようになっちゃった」



**えいこさんを見送ると、お母さんはミシンに向かい、仕事を始めました。
思えば、えいこさんはこれまでたくさんの出会いに恵まれ、成長してきました。
それは、お母さんにとっても大切な宝物です。**

えいこさんは、職場の仲間から
「ひまわり娘^{むすめ}」と呼ばれています。

ぐちをこぼさず、
いつもにこにこ笑顔で働いているからです。

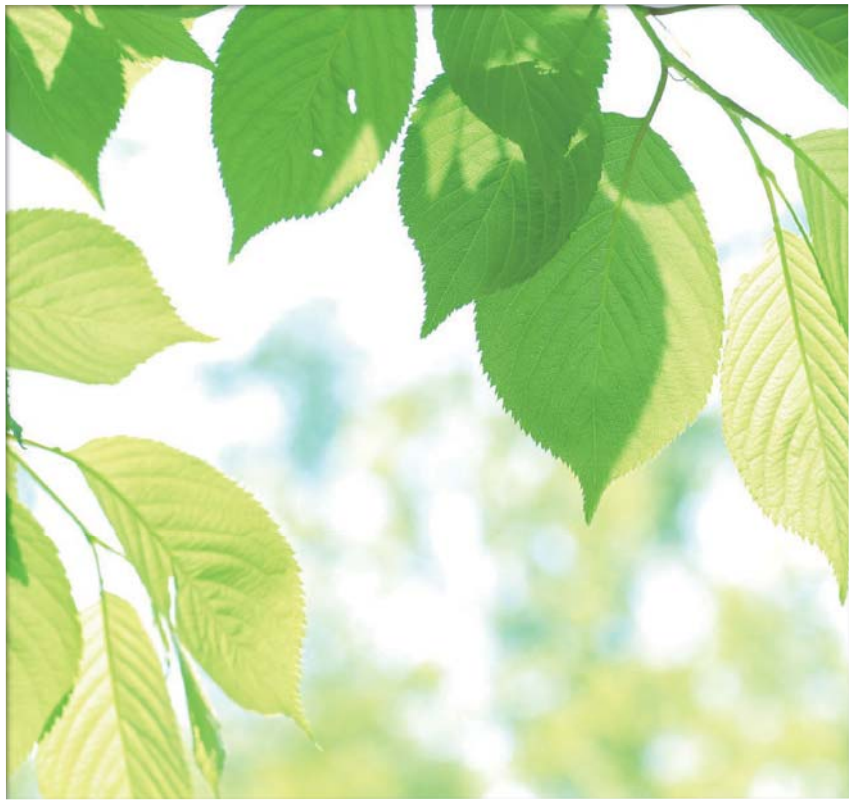
「いつまでも、ひまわり娘でいてね」

お母さんは祈るようにつぶやき、
手を動かし始めました。

今日も暑くなりそうです。

今年もまた、
ひまわりの季節がやってきたのです。





「知的障がい」について

発達期になんらかの原因で知的な能力が年齢相応に発達していない状態、および社会生活への適応に困難があります。「言葉を使う」「記憶する」「人とのやりとり」に少し時間を要します。周囲の理解や支援で一步一步成長できる可能性を持っています。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇ゆっくり簡単な言葉で話しかける
- ◇危険なシーンを目の当たりにしたらやさしく声をかける
- ◇パニック行動が起きたときは、落ち着ける場所へ誘導
- ◇誤解されやすい行動をする場合があるので、思い込みで判断せず見守る

あとがき

このお話に登場するえいこさんは50代、お母さんは80代です。えいこさんが子どもだったころ、障がいへの偏見は今よりもっともっと強く、ご本人もご家族もずいぶんつらい経験をされたそうです。でも、それ以上に「多くの素晴らしい出会いがありました」と、お母

さんは話してくださいました。今も障がいへの偏見がなくなったとは言えません。心のバリアフリーを実現するために、この絵本が少しでもお役に立てばうれしいです。(理)